

POSA 事業 報 告

Project
Operation
Sight for
All

No. 26

●2023 年度



POSA 目次

手術症例数及びスクリーニング症例数	P1
理事長より	
「コラプス（虚脱）の罠（わな）」	
POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀・P2	
副理事長より	
「2023年のアイキャンプを振り返って」	POSA 副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長 井上 望・P4
国際エンゼル協会より	
「2023年度 POSA アイキャンプ報告書」	
認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長 東村 良平・P6	
「Let there be Light」	
認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ・P7	
ライオンズクラブより	
「サステナブルな精神で美しい地球、平和な社会を」	
2023年度 神埼ライオンズクラブ会長 木原 憲治・P8	
バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー Ln. Ahammad Uzzaman MJF・P9	
アイキャンプ参加者より	
「再訪の高揚、手術の緊張、そして日々への感謝-アイキャンプの醍醐味-」	島根大学 佐野 一矢・P10
「治療の満足地点の設定はどこか？医療設備と術後経過」	自治医科大学 眼科 長岡 広祐・P12
「2度目のアイキャンプに参加して」	日本大学病院 眼科 宮田 佳祐・P14
「アイキャンプを終えて」	浜松医科大学 眼科 高木 啓伍・P16
「2回目のアイキャンプに参加して」	菊池眼科 看護師 中村 るみ・P18
「ボランティアをしようと思っているあなたへ」	菊池眼科 看護師 佐伯 陽子・P19
「念願のアイキャンプ」	看護師 永渕 京子・P20
「初めてのバングラデシュ」	久留米大学医学部医学科 3年 砂原 悠汰・P22
「アイキャンプで学んだこと」	熊本県立大学 2年 中村 紗也佳・P24
「たくさんの人との出会い」	熊本県立大学 2年 前村 実優・P26
「アイキャンプに参加して」	永渕 愛珠・P28
ふるさと納税による POSA への寄付と年会費・入会金納入のお願い	・P30
ふるさと納税での POSA への寄付の方法	・P31
ふるさと納税の返礼品	・P32
2023年度事業報告・2024年度事業計画	・P33
POSA アイキャンプ白内障手術の症例数	・P34
2024年度 POSA アイキャンプの日程・ご支援頂いた方の一覧表	・P35
POSA 理事・監事・名誉会員・一般会員名簿・POSA 規約(一部抜粋)・入会のお願い	・P36

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

手術症例数及びスクリーニング症例数につきましては下表。455 名のスクリーニングを施行し手術適応者が 122 名。実際には 122 名のうち 79%にあたる 96 名の方が手術会場であるコナバリのエンゼル協会に来られた。初日が 30 名。2 日目が 41 名。3 日目が 25 名でした。

21th Eye Camp of POSA-2023
International Angel Association
Konabari, Gazipur

Patients Screening Program

SL. NO.	Date	Place	Male	Female	Total pts
1	04. 11. 23 Saturday	Fayez uddin Sarker Universal College, Amraidi, Kapasia, Gazipur.	92	162	254
2	21. 11. 23 Saturday	Sahera Nayeb Laboratory School, Seedstore Bazar, Bhaluka, Mymensingh	40	62	102
3	October and November 23	Health Care Center Konabari, Gazipur.	51	48	99
		Total	183	272	455

Selected Patients for Operation

SL. NO.	Place	Male	Female	Total
1	Fayez uddin Sarker Universal College Amraidi, Kapasia, Gazipur.	26	28	54
2	Sahera Nayeb Laboratory School, Seedstore Bazar, Bhaluka, Mymensingh	14	17	31
3	Health Care Center Konabari, Gazipur.	18	19	37
	Total	58	64	122

Final Operation of POSA 20th Eye Camp -2022

SL. NO.	Date of Operation	Male	Female	Patients
1	24-11-2023	12	18	30
2	25-11-2023	21	20	41
3	26-11-2023	13	12	25
	Grand Total	46	50	96

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「コラプス（虚脱）の罠（わな）」

POSA 理事長 医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長 倉富 彰秀

マシュマロとマカダミアナッツぐらいの違いがあります。超音波白内障手術装置で使用されている吸引チューブの硬さです。

現在日本で主流となっている（某社センチュリオン）の吸引チューブを指で摘んでみると圧縮することは困難です。他方バングラデシュで我々が今回使用した（某社パルサー）の吸引チューブは簡単に2本の指で潰すことが出来ます。この吸引チューブの柔らかさがコラプスの主因となっています。核を保持したまま吸引をかけ続けていると吸引チューブ全体が陰圧となります。この状態で吸引が解除されると、あわててフットペダルを離しても1秒程度吸引が持続してしまいます。これが原因で前房虚脱、さらには後嚢破損の合併症を引き起こす可能性が高くなります。以上の理由で、現地での古い型のフェイコマシンを操作する場合、術者は最新のフェイコマシンでの白内障手術とは全く違う心構えをもって手術にあたることが肝要となります。車の運転に例えますと最新の電子制御のオートマ車の運転ばかりしていた人がいきなり40年前のマニュアル車を運転する様なものです。

今回のバングラデシュ眼科医療援助において、井上先生より協賛を頂いたフェイコマシン（某社パルサー）の修理が完了しフル稼働をしてくれました。この為日本人眼科医は超音波白内障手術を全例に行うことが出来ました。ただし、フェイコマシンが上記の如く吸引チューブが柔らかいという古い設計である為、各術者は使用感の違いにかなり苦労したことと思われます。一番に挙げられるのは吸引が解放されたときに起こる前房の虚脱（コラプス）です。この一番の原因は吸引チューブの柔らかさによるものです。上記パルサーよりもさらにコラプスを起こし易いとの声も多かった（某社ブラックマックス）は悪い表現ではありますが串刺しフェイコと陰口をたたかれたものであります。串刺しと言うのは核を刺してさらに後嚢、硝子体まで串刺しにしてしまうという揶揄（やゆ）であります。もちろん術者によりましてはとても良く核を吸いつけてくれて手術し易いという声もあったことを申し添えます。今回、バングラデシュに置いてあるフェイコマシンもこの（某社ブラックマックス）に近いものがあります。このような暴れ馬を冷静なフットペダル操作と左手のアシストによって上手に超音波手術を行うのが重要であると感じております。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

繰り返しになりますが、この様な古いフェイコマシン使用時に心がけるべきことがあります。それは、吸引時チップ閉塞時には吸引チューブ全体に相対的な陰圧がかかっていることを感じながら操作を行うことです。もちろんアンチコラプス機構などという優しいオプションなど付いておりませんので、術者の足かけん手かけんが大切です。分かり易く言いますと、バイト&アウェイ（ひとかみしたらすぐ逃げる）という慎重なフットペダル操作が有用となります。もちろん、吸引流量を下げる、吸引圧を控えめにする、灌流ボトルの高さは必要十分な高さにする。これは、基本です。術者が各術者の手術センスに合わせて、また患者さんの自内障の状況を見ながら術者自ら吸引流量や吸引圧を決定することが必須となります。

ということで今回は残念ながら96眼の手術中2眼に後嚢破損を生じてしまいました。内1眼は指導医として待機していた佐野先生の丁寧なリカバリーにて眼内レンズを囊外に挿入する事が出来ました。もう1眼はバックアップホスピタルであるダッカライオンズ病院にて前部硝子体切除の上眼内レンズ2次挿入手術予定といたしました。幸いに2例とも眼底透見良好であり核片などの落下もなく網膜の合併症はありませんでしたので術後は十分な視力を得られることが期待されます。

今回は例年にも増して多数のD r及び看護師にご参加頂き、現地のバリさんを中心としたエンゼルスタッフさらにはコナバリエンゼル協会の孤児の子供達のご協力を頂き無事全ての手術を終える事が出来ました。心から感謝いたします。

今後も質の高い眼科医療援助を継続していくことをPOSAの基本理念として活動を継続していきたいと考えています。



赤い帽子が倉富理事長（サングラスは術後の患者さん）

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2023年のアイキャンプを振り返って」
POSA副理事長 熊本県 菊池眼科 理事長 井上 望

今年も事故がなく、無事にアイキャンプを終えて帰国することができました。前回は持参した白内障手術機械が初日に故障するハプニングがありましたが、今回はその機械をバングラデシュのエンジニアに修理してもらい、手術の三日間、問題なく作動して安堵しました。参加して頂いた先生方やその他のスタッフの方々も複数回の参加の人が多く、以前よりもより効率的に術前診察や手術、術後診察を行うことができました。また、3名の大学生にもお手伝いしていただきました。若い時のこの経験がこれから的人生に役立てば大変喜ばしいと思っています。

毎年11月の初めに行っているアイキャンプですが、今回は航空券の取りやすさを考慮して11月前半の連休ではなく、後半の飛び石連休を選択しました。結果的に、直前になってもチケットの値段や空席状況はさほど前後半ともに変わらないことがわかりました。次回はエンゼル協会の都合を聞いた上で例年通り11月の初めに予定したいと思っています。

参加してくださった皆様、お疲れ様でした。そしてPOSAに寄付してくださった多くの皆様、本当にありがとうございました。



術後の検査

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



現地眼科医による術前の診察



術前の診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2023年度 POSA アイキャンプ報告書」
認定特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 事務局長 東村 良平

日時：2023年11月23日～27日

- 11月23日 患者さんの術前検査、手術準備
- 11月24日 手術、翌日の患者さんの術前診察
- 11月25日 手術、前日手術患者さん術後診察、翌日の患者さんの術前診察
- 11月26日 手術、前日手術患者さん術後診察
- 11月27日 前日手術患者さん術後診察

場所：バングラデシュ国ガジプール県コナバリ市
国際エンゼル協会現地事務所敷地内クリニック

内容：今年も日本人眼科医師によるアイキャンプを実施することができました。当初は翌年1月にバングラデシュで行われる総選挙の影響で、11月初めよりデモやストライキが散発しており開催が危ぶまれておりました。しかし現地の患者さん達の開催を望む強い希望を受け、国際エンゼル協会バングラデシュ現地責任者アジズル・バリ氏はじめスタッフも開催に向け安全が確保できるよう綿密に計画してきました。またそのような情勢にも関わらず、経済的に貧しくて治療ができず困っている患者さん達の為にと日本からたくさんの方々が医師、看護師、学生さんにご参加いただき、無事アイキャンプを実施することができました。現地では事前のスクリーニングにより96名の患者さんが選定されており、計5日間で全ての患者さんへ術前の検査から白内障手術、術後検査までを行いました。アイキャンプではいつもお世話になる現地のミジャン眼科医師も参加され、日本人の皆様と旧交を温めました。また同敷地内にある児童養護施設エンゼルホームの子ども達も患者さんの日常のお世話の手伝いを行い、子ども達にとっても医療、介護に触れる良い機会となりました。今回バングラデシュで行われました2023年度 POSA アイキャンプに関わられた全ての方々に、現地の人々はこころより感謝しております。ありがとうございました。また来年もどうぞよろしくお願いします。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「Let there be Light」

特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 バングラデシュ責任者 アジズル・バリ

皆さんこんにちは。

今回手術した一人は”これから毎朝起きて見えることができてとてもしあわせです”と
いうことをかたりました。

POSAを通じて 2000 年から日本のみなさんのおかげでバングラデシュの農村のおおぜい
の方々が見えることができるようになりました。

心から感謝をしております。ほんとうにありがとうございました。これからもよろしく
お願いします。

Md. Azizul Bari
Executive Director
International Angel Association
Bangladesh



左側がバリさん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「サステナブルな精神で美しい地球、平和な社会を」

2023年度 神埼ライオンズクラブ会長 木原 憲治

サステナブル(Sustainable)とは、Sustain (持続する)と able (~できる)からなる言葉で、「持続可能な」「ずっと続けていける」という意味があります。最近では、地球温暖化の問題など地球環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、生活をし続ける社会を目指し、積極的に取り組んでいる人や企業を指すようなことに使われる様になりました。地球温暖化は、産業革命以降、大気中の二酸化炭素(CO₂)の排出量が急増したことが主因と考えられており、このまま世界の平均気温が上昇すれば、2100年には最大で4.8℃上昇すると予測されています。このような地球温暖化は、世界各地で気候変動をもたらし、豪雨災害や高温による山林火災など異常気象を引き起こすなど大きな社会問題になっています。国、自治体、企業はもちろんのこと私たち個人でも「ゼロカーボン」を目指し、少しでも二酸化炭素の排出を減らす努力をしていきたいものです。何事も、持続継続することは大変なことですが、継続することに意義があり、そうした中、神埼ライオンズクラブではアイキャンプを2019年に第25回を数え、コロナ感染症時期には中止されていましたが、2023年にはまた再開され、今回アイキャンプ活動に参加することができ、会員の倉富先生を始め、POSAのスタッフの皆様、また関係者の皆様に感謝、敬意を申し上げます。また、当クラブではライオンズクエストも教育委員会の協力を得て毎年実施しており、クエスト活動も今後も継続して実施していきたいと思います。最後に、長引いています、ロシアによるウクライナ侵攻など早く終息し、美しい地球、平和で豊かな社会が一日でも早く来ることを願っています。



現地ライオンズクラブの方々との交流

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

バングラデシュ ライオンズクラブ 地区ガバナー

Ln. Ahammad Uzzaman MJF



Dear fellow Lions members of Kanzaki Lions Club, Japan.
Our heartiest greeting from Bangladesh.
We are very grateful to know that since 2000 Japanese NPO,
POSA has been supporting to continue arranging Eye Camp
and Cataract operation for the rural people of Bangladesh.
In November 2023 I feel honored to visit your activities
in Konabari, Gazipur, Bangladesh. We had a nice meeting
and a chance to get to know each other on that occasion.

Since 1971 Japan has been our best development partner in many fields. Hope our
friendship will continue in the future too.

Convey my best regards to all Lions members in Japan.

翻 訳

日本の神崎ライオンズクラブのライオンズ会員の皆様。バングラデシュより心からのご
挨拶を申し上げます。2000 年以来、日本の NPO 法人 POSA がバングラデシュの農村部
の人々のためにアイキャンプと白内障手術の手配を継続的に支援し続けていることを
知り、私たちは非常に感謝しています。2023 年 11 月に、バングラデシュのガジプー
ルのコナバリでの活動を訪問できることを光栄に思います。私たちはその機会に素晴らしい
出会いがあり、お互いを知る機会がありました。1971 年以来、日本は多くの分野
で私たちの最良の開発パートナーとなっていました。私たちの友情が今後も続くことを
願っています。日本のライオンズ会員の皆様によろしくお伝えください。

Ln. Ahammad Uzzaman MJF
District Governor 2023-2024
Lions International
District 315 B2, 66149, Bangladesh.

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「再訪の高揚、手術の緊張、そして日々への感謝　—アイキャンプの醍醐味—」

島根大学 佐野 一矢

11月末のバングラデシュは年明けの総選挙を前に、首都ダッカではデモや一部暴徒による破壊活動が起こっていた。一抹の不安を抱えてのダッカ入りであったが、デモなどは限られた場所で、幸い巻き込まれることはなくキャンプ地であるコナバリに到着することができた。むしろ選挙に絡むストライキの影響で、ダッカ名物である交通渋滞はおとなしいものであった。

手術はと言えば、前回故障した白内障手術機械が修理され、超音波乳化吸引術が問題なく行えるようになっていた。前回はいきなりの機械故障のためほぼ全例水晶体嚢外摘出術を行い非常に大変な思いをした。そのことを思えば今回の手術は(もちろん大変ではあるが)気が楽であった。相変わらず眼内レンズはPMMAという硬いレンズが主体で、普段使い慣れていない我々は苦戦した。日本の企業からキャンプのために提供いただいた柔らかく挿入しやすいレンズは数が限られており、そのレンズにありつけた時には思わずガツツポーズができるほどであった。

キャンプに参加するたびにあの独特の緊張感を味わう。絶対に水晶体を落とせない「闘い」である。現地の医療資源は限られており、合併症は許されないという気持ちで臨む。そして日本に帰って病院の手術室に入った時の安心感は凄まじく、豊かな医療資源へ感謝の気持ちでいっぱいになる。キャンプに参加することの意義は、貧しさゆえ医療にアクセスできない患者さんへの医療提供であることは間違いないのだが、同時に自身の置かれた状況を再確認し感謝するということでもあると改めて思う。



2列目右から3人目がDr 佐野

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



2 line の手術室



右から 3 人目が Dr 佐野

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「治療の満足地点の設定はどこか？医療設備と術後経過」

自治医科大学 眼科 長岡 広祐

今回で3回目のアイキャンプへの参加となりました。コロナ社会の情勢も落ち着き、昨年度とは出入国の点で細かなことを気にしなくて済み、実際の出入国もとてもスムーズでした。

今回も視能訓練士はおらず、医師と看護師および現地スタッフと子供たちの協力のもとで現場を回していました。

今年は昨年使えなかった白内障手術機器が問題なく使えたことにより、日本医師もかなりの人数を手術できたと思われます。今後も手術機器を用いて小切開で手術ができるようであれば、foldable IOLを確保できると無駄に創口を広げる必要もなく、より安全でより良い医療が提供できると思います。その他の医療機器としては、レフケラトメーターの精度が不安定であるという点と、簡易的な眼圧測定（トノペンやアイケア、もしくはスリット台へのアプラネーションの取り付けなど）ができるとよいと思いました。

私が診察した白内障の評価では、多くの患者さんに後囊下白内障を認めておりました。視力に大きく影響するタイプの白内障であるため、IOLの狙い値からの多少のズレや手術創による角膜乱視などがあっても、見え方はかなりの改善が見込まれると思います。しかし、我々は術翌日しか患者さんのフォローをできないので、実際の視力や屈折値がどのようにになっているのかは把握できていません。術前後の屈折値、裸眼視力、最高矯正視力などのデータを確認できるといいなと感じました。

また、機器の不正確性に関しては買い替えることができればよいのですが、それが難しい場合、術後屈折値と目標値とのずれに関して検討し、レフケラの誤差やAモード眼軸長測定の誤差に関連・傾向があるのであれば、その点を補正した形でIOL度数を決定することで、機器を取り換えなくても多少改善できる可能性はあります。

ただし、「見えなかつた状態が見えるようになったのであれば十分でしょう」という考え方であれば、ここまでることは必要ありません。アイキャンプという環境なので、提供できる医療レベルには限度があります。このような状況下で、どのレベルまで目標を上げるかは個々の意識、組織としての目標と、現実的にできるかどうかという話になってきますが、今後もより多くの人に少しでもよい医療を提供できるように、試行錯誤して活動を続けてまいりたいと思います。

今回現場はややせわしなかった印象ですが、またゆっくりと参加者、現地の人たちともコミュニケーションを取れるといいなと思います。今回参加された方とまたお会いできること、新たな参加者との出会いを楽しみにしております。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



中央が Dr 長岡

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2度目のアイキャンプに参加して」
日本大学病院 眼科 宮田 佳祐

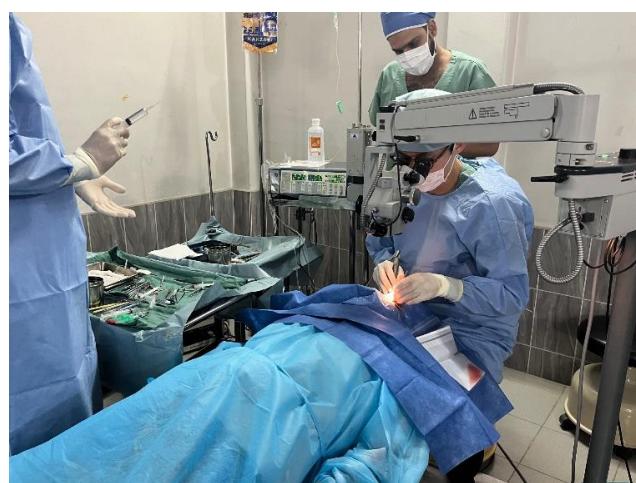
昨年に続き、2度目のアイキャンプに参加させて頂きました。
前回参加時はバングラデシュに関する知識が全くなかった為、未知の場所に対する不安な気持ちもありましたが、実際に行ってみると不安感も払拭するような楽しく充実した体験をすることができました。今回はより長く滞在しようと思い、11月23日の術前検査から26日の手術まで参加させていただきました。

今年も施設に到着すると、職員の方や孤児院の子供達が温かく出迎えてくれました。昨年一緒に遊んだエンゼルホームの子供達にも1年ぶりに会う事ができ、明るい笑顔に元気をもらうことができました。

現地の先生にベンガル語を教えて頂いた事で昨年より語彙も増え、片言ではありますが、患者さんとのコミュニケーションも多少スムーズになったように思います。今年も無事に手術が終わり、見えるようになって喜ぶ患者さんの顔を見て、参加させて頂いてよかったです。

手術室でよく使う言葉は覚えてきましたが、その他の場面で患者さんと話すときや子供達と遊ぶとき、空港で出入国手続きの際に、言語の違いにより意思疎通が普段よりも更に困難になることを実感します。話しかけてくれる子供達ともっと会話をしたい気持ちもあり、声かけにより手術を受ける患者さんの心理的負担も和らぐ利点もあるかとも思うので、次回参加する際はもう少しベンガル語を覚えておこうかと思いました。

今年もアイキャンプでお世話になりました先生方、スタッフの方々にこの場を借りて感謝を申し上げます。



手術室

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



術後の検査



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプを終えて」

浜松医科大学 眼科 高木 啓伍

縁あって、アイキャンプに初めて参加させていただくことができました。お誘いいた
だいた佐野先生始め、POSA 理事長の倉富先生、副理事長の井上先生、参加者の方々に
この場を借りてお礼申し上げます。

この寄稿を書いている今日は帰国後から約 2 週間後であり、バングラデシュの余韻も
やや抜けている頃でしょう。今一度、思い出を振り返るにはちょうどよい頃なのかな
と感じます。帰国直後は、会う方々にアイキャンプのことを尋ねていただき、驚きの
反応を見るのが楽しみだったものです。

まず、バングラデシュという国について知らない方が多いかと思います。自分も
その一人で、「白内障手術ボランティア」という目的が先行しすぎたのか、国について
は大して下調べもせず入国しました。そして空港を出るや否や、立ちこめる粉塵と膨
大な交通量に圧倒され、全く読めないベンガル語に囲まれながら路頭に迷っていると、
現地人がとりあえずタクシーに乗れと詰め寄ってきましたと…。序盤からかなり刺激的
な展開となりました。空港からホテルまでの道のりも日本とは全く違う景色が続きま
す。帰国してから今更調べてみると、バングラデシュはかつて世界最貧国といわれ
たものの、ここ数年で高い経済成長を達成し最貧国からは脱出したとされています。
しかしあまだ経済格差などの問題は大きく、COVID-19 の影響で新たな貧困層も発生
しているそうです。道中の車窓は、コンクリート打ちっぱなしの建設途中のビル群が
並び、バイパス道路にはクラクションが鳴り響き、数多のモーターサイクルが針を縫
うように走り、空気はなんとも茶色い。その国の背景を感じさせるような景色を、え
もしわぬ感情に包まれながら眺めていました。なんとかホテルに着き、翌日には先
に現地入りしていた日本人ドクターと合流し、いよいよアイキャンプが開始されました。
3 日間、計 96 人の術前術後診察、白内障手術が施行されました。僕は初参加とい
うこともあり、多くの患者様の手術に携わらせていただきました。検査機器、手術機
器、言語や人種の違いなど日本との違いを挙げればキリがありませんが、そういった
中でも見えない人を治療するという根本の部分は同じで、限定的な環境の中で最善を
尽くすことが求められます。このキャンプで治療される方々の背景は、経済的理由か
ら医療機関の受診が困難であり、そのため視力低下を強く訴えられており白内障の進
行度も高度です。加えて白内障手術マシンは 15 年ほど前のもの(それがあるだけでも
大きなアドバンテージになるのですが)を使用するため、更に手術難易度も上がります。
現地ドクターと並列で行われる手術は連日手際良く行われ、無事に予定手術を全て終
えることができました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

中でも現地ドクターのミジャン先生の手術はマシンを使用しない術式で、いわゆる達人技でした。日本ではあまり行われなくなった手技を間近で見るだけでも大きな刺激になりました。

現地での生活も新鮮で、食事は毎食全てカレー(!)。最初は戸惑いがなかったといえば嘘になりますが、どれも美味しく、帰国直前の食事の頃には名残惜しさを感じるようになっていました。日程の合間にレクリエーションも行われ、エンゼル協会の責任者であるバリさんや、子どもたちの温かさにも触れることができました。仕事に忙殺されていた日々を忘れて過ごした5日間のバングラデシュ滞在は、忘れる事のない人生の糧です。再訪できることを楽しみに、また日常に戻って患者様と向き合っていきたいと思います。



手術前の患者さん診察

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「2回目のアイキャンプに参加して」

菊池眼科 看護師 中村 るみ

私は昨年アイキャンプに参加しましたが、今回は娘とその友達から参加したいと想定外の申し出があり私も参加する事を決めました。前回の反省点として術前の患者さんの散瞳剤効果のチェック、点眼麻酔の回数の確認と、物品出しを迅速にする事の3つがありましたが、今回は私と佐伯さん、永渕さんの3名の看護師で役割分担しました。ただ昨年同様患者さんと上手くコミュニケーションを取ることができませんでした。片言のベンガル語で声かけするも通じないことが多く戸惑いましたが、無事に手術の介助を終える事ができました。術後の患者さんの笑顔や安心した顔をみると今回も参加してよかったです。

手術の時はエンゼルホームの子供達が患者さんのお世話を良くしてくれました。手術後の夜間私達はその子供達のお部屋にお邪魔しました。子供達が、染料を使ってヘナタトゥを私の腕に描いてくれたり、一緒に手品をして遊んだり、絵本を見せてくれたりして楽しい時間を過ごしました。子供達はみんな人懐っこく、素直でキラキラした瞳で英語で話しかけてくれましたが意思の疎通が不十分でした。自分ももっと英語を上手く話せたらと強く思いました。

最後になりましたが倉富先生、井上先生をはじめ一緒に参加して下さった先生やスタッフの方々に心から感謝します。ありがとうございました。



術後患者さんの誘導をする中村さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「ボランティアをしようと思っているあなたへ」

菊池眼科 看護師 佐伯 陽子

ボランティアには興味がありやってみたいと思うけどなかなかできないでいる方、たくさんいらっしゃると思います。私も同じでしたが、周りにも恵まれ昨年からまたこのアイキャンプに参加させて頂いています。熊本地震の時には、地域のボランティアに登録し、家屋の片付けなどを行い、支援者同士の繋がりや、何よりもやっている自分も被災者だったためか、励まされた気持ちになったのを覚えています。このアイキャンプでも日々病院で忙しい仕事をされているのにもかかわらず、眼科医の先生方の熱心なお姿を目の当たりにして、少しでもお手伝いできればという気持ちが強くなり再度参加しました。

まずは本当にボランティアをやりたいという気持ちがあるのかが1番大事ですが、特に海外で、となればちゃんとした組織でしっかりと情報収集した上で、始められるのがいいと思いますが、このPOSAは安心して参加できます。あとは周りとの調整、主に仕事や家庭。大変難しいですが、これさえできれば、必ず可能な道が見えてくるはずです。大変な思いをしてでも、いざ行けたら、人として多くのものを得る事は間違いないと思います。

ただし今回も痛感したのが、言葉の壁でした。施設の子どもたちが一生懸命母国語ではなく英語で伝えてくれますが理解できず、本当に悔しい思いをしたのはいうまでもありません。次回行けるまでに、術中に使う現地の言葉の声かけや、簡単な英会話ができるようになるのが今の私の目標です。



術後患者さんの誘導をする佐伯さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「念願のアイキャンプ」

看護師 永渕 京子

臨床の現場を離れて 30 年も経ってしまいその間、一度も医療に携わる事なく過ごしてきた私でした。数年前から倉富夫人からアイキャンプの事は聞いて興味はあったのですが、家業や子供の学校等があり 踏み出せずにいました。

今回、やっと全ての束縛から解放され復帰のための一歩を踏み出すチャンスを得ました。しかし、30 年というブランクは、大きな壁の様なものでした。

また、全く経験のない眼科と言うこともあり、私は、一旦参加の返事はしたもの日を追うごとに不安の方が強くなってきました。そこで、倉富先生ご夫妻に無理を言って、数日眼科で研修をさせてもらうことにしました。もちろん数日では器具の名前や手術の手順や眼科で主に使う薬品等も覚える事はできませんでしたが、『とにかく迷惑をかけない様に自分のできることをみつけてやろう！』と決心して当日に臨みました。

深夜便で、到着は 22 時は過ぎていたはずですが、エンゼル協会の子供達や職員の方々の温かい歓迎を受けて、まず感動しました。日本各地から来られた眼科医と現地眼科医の二刀流の手術風景、日本国内ではあまり目にしないであろう楽しそうに手術や診察等をするドクターとそれを手際よく手伝うホームの子供達。どれも微笑ましく心が温まる思いがしました。3 日間手術室の手伝いをさせて頂くつもりでしたが、急なアクシデントにより予定より早い帰国となり私としては、何も役に立てず申し訳ない気持ちでいっぱいでした。また、ホームの子ども達とも接する時間も少なかつたことも心残りでした。もし、来年もチャンスを頂ければ是非リベンジしたいと密かに燃えています。この度、初めから終わりまでご迷惑をおかけした倉富先生ご夫妻、色々とお声掛け頂いた井上先生、優しく指導して頂いた中村看護師、佐伯看護師、エンゼル協会の方々に感謝申し上げます。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



右手前が永渕さん



2 line の手術室

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「初めてのバングラデシュ」
久留米大学医学部医学科3年 砂原 悠汰

以前アイキャンプに参加した父に勧められて、今回初めて参加することになりました。名前しか聞いたことのない国であり、一緒に行く知り合いもいなかったので、父から情報を聞いたり自分で調べたりしてあまり想像できず、不安な気持ちと少しの楽しみな気持ちで行く前は少し緊張していました。ダッカの空港についても、人でいっぱいの空港やクラクションが鳴りっぱなしの車移動など、経験したことのない出来事に圧倒されました。しかしエンゼル協会に着くと、夜遅くにもかかわらずたくさんの子供達に出迎えられ、とても嬉しくて不安が一気に無くなりました。

手術室には、1日だけ入らせてもらったのですが、見慣れない光景やアルコールランプでの消毒など今後体験できないようなものだらけで、素晴らしい経験をさせてもらっていると感じたと同時に、自分もいつか先生方のように手術できるのかという不安も感じて、帰ったらもっと勉強しないといけないとも思いました。

トウクトウに乗って、市場やスーパーに出かけた時は、日本では見られない環境や物に驚き、バングラデシュに対して、より興味が湧きました。現地の方々は優しい人ばかりで、子供達は写真を撮ろうと声をかけてくれたり、市場やスーパーの人はいろんな商品を見せてくれたりなど、フレンドリーな国民性を感じました。

エンゼル協会の方達は、すれ違ったら笑顔で声をかけてくれたり、子供達が折り紙やヘナタトゥー、お絵かきをしてくれたりなどとても人懐っこくて元気をもらいました。急遽、マジックで司会をすることになった時はとても緊張しましたが、子供達がとても喜んでくれていたのでやってよかったと感じました。出国後には、手紙を書いて届けてくれてとても嬉しかったです。

今後はアイキャンプを通して感じたことや学んだことを糧に、卒業までにしっかり知識をつけて、次は医師として参加したいと思います。

最後に今回貴重な機会を下さった、POSAの皆様、先生やスタッフの方々に心から感謝します。ありがとうございました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



黒いTシャツが砂原さん



術後の患者さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプで学んだこと」

熊本県立大学2年 中村 紗也佳

私は、去年、バングラデシュで医療活動を行なった母親の姿を見て、自分も国際交流に貢献したいと思い参加した。ボランティアの内容は主に、白内障手術の手伝いや国際エンゼル協会の子供達との交流であった。私は、初めての海外だったので、毎日がとても刺激的で、あつという間に時間が過ぎていった。

バングラデシュでは、2022年にODAにより都市高速鉄道が開通したにも関わらず、交通渋滞の問題は解決していなかった。また、建物の窓ガラスが割れたままになっていたり、トイレとシャワーの位置が近く、トイレが水浸しになっていたりするなど、日本と比べると、不便な点はいくつかあった。しかし、バングラデシュの子供達は、いつも笑顔で元気に生活していた。私にとって、最貧国=不幸せと思っていたが、それは違った。豊かな生活ができなくても、子ども達は、それを不幸せだと思っていなかった。子供達は、「今」を楽しんで生きているように見えた。そして、周りの人達に対して無償の愛を注いでくれる人だった。私も、子供達からたくさん愛とエネルギーを貰った。また、私は、偶然、二十歳の誕生日をバングラデシュで迎えたのだが、誕生日当日には、手作りのケーキと似顔絵、綺麗な花、手紙を貰った。

私は、ボランティアとしてバングラデシュに行ったが、自分たちが与えることより、子供達から、与えてもらうことの方が多かったと感じた。ボランティアという言葉を聞くと、ボランティアを行う側の立場が上であると捉えたり、凄いと思われたりするが、そうではない。ボランティアを行う側も受ける側も得るものは沢山あり、双方の支え合いによって成り立つものだと知った。私は、バングラデシュの子供達のように誰かから与えられる存在ではなく、誰かに与える存在になりたいと思った。旅行で見る綺麗な景色や美味しいものを食べたときの感動は一瞬だが、バングラデシュで過ごした時間は、旅行では味わえない、とても充実した思い出となった。来年も子供達に会いにバングラデシュに行きたいと思う。

最後になりましたが、貴重な機会を下さいました倉富先生、井上先生はじめとする他の医師や看護師、スタッフの皆様に御礼申し上げます。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



最後列左から 2 人目が中村さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「たくさんの人との出会い」

熊本県立大学2年 前村 実優

私はエンゼルホームの子供たちと遊ぶことで多くの時間を過ごしました。福岡国際空港から香港経由でダッカまで行きました。ダッカに着き、エンゼルホームにたどり着いた時には夜中の3時を回っていました。なのにも関わらず、エンゼルホームの子供たちは私たちを盛大に出迎えてくれました。私自身初めての海外だったので緊張していましたが、暖かく出迎えてくれたため、とても心が暖かくなり緊張が解けたのを覚えています。アイキャンプでのボランティア活動については、手術を終えた患者さんにサングラスをかけたり、手術後の片付けなどを手伝っていました。その時には多くの人に感謝されとてもいい活動に参加出来ているなと感じました。 その他の多くの時間は、エンゼルホームに住み、学校に通っている子供たちと過ごしました。 実際にバングラデシュに滞在し、子供たちと交流した日数は五日間でした。その中で、子供たちが留年のかかった

テスト前日に楽しそうにダンスをしていることや、会う度にお花をくれること、no problemなどと「ほわほわ言葉」を沢山くれるなど、日本では体験することがないようなことが起こったり人の温かさを感じました。 また、エンゼルホームだけでなく街中にも出してくださり、街並みを眺めることも出来ました。たくさんのヤギを首輪で繋いでいる傍でヤギを捌き売っている姿、魚を売る市場では地面がべちゃべちゃなところ、街中にはゴミが沢山落ちていることなど、もともと刺激的な体験で、命の大切さや普段ありえないことが続きとても楽しいと感じることが出来ました。 また、街中を通る度に、「Hey, sister!」と呼ばれたり写真を撮ろうと言われ「Cute」と沢山言われるなどの温かさを多く感じる街、国でこの国の虜になりました。 日本では体験できないようなことを毎日たくさん体験でき、それによって忘れていた人の温かさを感じバングラデシュが大好きになって帰ってきました。同じくにこのボランティアに参加していた日本人とも沢山会話して自分中の世界がぐんと広がったように感じます。このような体験をこれからももっとしていこう、またこのボランティアに参加したいと強く感じました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



後列中央が前村さん



後列右から 2 人目が前村さん

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

「アイキャンプに参加して」

永渕 愛珠

数ヶ月前、母の紹介で参加を決意いたしました。私も母も初めての参加で、私たちに何か役に立てることがあるのか心配しておりました。

まず、この活動で感じたことは“やりがいのある活動”だということです。学生時代、あんなに時間があったというのになぜこのようなアイキャンプを含むボランティア活動に参加しなかったのか、今思うと後悔でなりません。

今回24歳になり初めての経験でした。バングラデシュはとても裕福な国だとは言えません。そのため倉富先生、井上先生をはじめとする日本の先生方が白内障の手術をするというのが今回の活動です。日本では当たり前のように体の不調があると病院に行ける。このような環境は恵まれてると思いました。アイキャンプ期間には毎日たくさんの方がこの機会を待ってらっしゃったと思います。先生方のおかげで数日間で何人の方を救えることは素晴らしいことだと思います。私は何の技術も持っていないが携わることができて貴重な経験をさせていただきました。

次に感じたことは“子どもたちの笑顔”に幸せをもらったことです。私は主にエンゼルホームにいる子どもたちと過ごしていました。施設の案内をはじめ、バングラデシュの伝統的なものをたくさん教えてくれました。子どもたちは毎朝気持ちのいい笑顔で迎えてくれます。私たち日本人からすると恵まれた環境ではないと思いますが、子どもたちはとても幸せそうで私たちも幸せな気分にさせられました。子どもたちの笑顔はこんなにも人を幸せにできるのかと感心しました。私も見習うべきことが沢山あると子どもたちから教わりました。

最後になりますが、何の技術もない私を参加させてくださいありがとうございました。本当に良い経験をさせていただきました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



前列右が永渕さん



スクリーニングを待つ人たち

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税によるPOSAへの寄付と年会費・入会金納入のお願い』

平素よりPOSA活動のご理解ご協力有難うございます。

ご存知の様にPOSAは皆様方の寄付金や年会費により活動しています。

POSAは佐賀県ふるさと納税対象団体に指定されています。つきましては同制度を利用してPOSAへのご寄付をご考慮して頂ければ幸いです。

※佐賀県在住の方でも寄付は可能です。(返礼品はないですが、寄付金控除はあります。)

佐賀県以外に在住の方の場合は寄付金控除と返礼品いずれも可となります。

☆1. ふるさと納税は※寄付金控除の対象となります。

※寄付金控除とは納税者が国や地方公共団体等に寄付をすると受けられる所得控除と税額控除のことです。

※総所得の40%までの寄付金が所得控除となります。

☆2. さらに住民税の2割までの寄付額については、有利な条件で控除を受けることがあります。

※ふるさと納税寄付金の2,000円を超える金額すべてが翌年の住民税から減免されます。

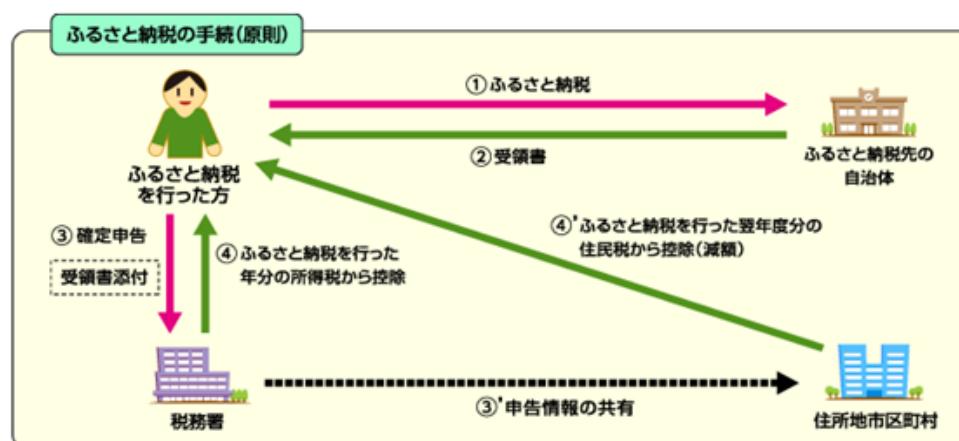
※確定申告もしくは「ワンストップ特例制度」の申請が必要となります。

※ワンストップ特例制度は次の2つの条件を満たせば、利用できます。

①もともと確定申告をする必要のない給与所得者等であること

②1年間の寄付先が5自治体以内であること

POSAにふるさと納税として頂いた寄付金はアイキャンプにて現地の白内障手術の為の経費に充てられます。収支はPOSAのホームページでも公開し経理の透明性を保っております。



ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

『ふるさと納税での POSA へのご寄付の方法』

○クレジット決済・郵便振替ご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさとチョイス」を検索。
2. 「ふるさとチョイス」のホームページをクリック ⇒ 「地域さがす」をクリック
3. 「佐賀県」をクリックするとそのページの少し下にある「佐賀県 NPO 支援ページはこちら」をクリック、出てきたページの右側にある「使い道」をクリック、そのページのほぼ一番下（下から 2 番目）に POSA があります。その中で返礼品を選択してください。金額も自由に選べます。
4. 「寄付へ進む」をクリック
5. 「この自治体の申し込みへ進む」をクリック
6. 会員登録がお済みの方は「ログイン」をクリック、お済みでない方は「会員登録して寄付する」か「会員登録しないで寄付する」をクリック
7. ○ 1) 特定非営利活動法人 POSA の「○」をクリックして「次へ進む」をクリック
8. 必要情報の入力をして「次へ進む」をクリック
9. 申し込みオプションの設定に必要事項を記入。
※ふるさと納税は確定申告をする必要があります。
但し、条件を満たせばワンストップ特例制度という確定申告が不要の制度を利用できます。
※ワンストップ特例制度をご利用の方は、「希望する」に必ずチェックを入れてください。
申告特例申請書が送られて来ますのでご記入の上、必ずご返送下さい。
10. 「確認へ進む」をクリックし、入力内容を確認する。
11. 申し込み確認事項を読んでいただき問題がなければ、「上記に同意する」にチェック
12. 「申し込みを確定する」をクリック ⇒ 完了

POSA 会員にご入会頂いた皆様は、今後は入会金（10,000 円）や年会費（10,000 円）の納入もふるさと納税制度を利用されますと個人の自己負担は少なくなります。
入会金や年会費納入の場合は…その他 佐賀県へのメッセージの欄に { 寄付金、入会金、寄付金 } のうち該当するものをご入力下さい。（複数可）

例：寄付金 30,000 円、年会費 10,000 円

○クレジット決済・郵便振替以外をご希望の方

1. Google などのインターネットで「ふるさと佐賀県応援サイト」を検索
2. 「ふるさと佐賀県応援サイト/佐賀」のホームページをクリック ⇒ 「お申し込みのご案内」をクリック
3. 「ふるさと納税 (NPO 支援) お申込みフォーム」をクリック
4. 「3. 金融機関での振り込みを希望される方」の「ふるさと納税 (NPO 等の支援) お申込みフォーム」をクリック
5. 必要事項を記入 ⇒ 「入力内容確認」をクリック ⇒ 「送信する」をクリック ⇒ 完了

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

ふるさと納税の返礼品

自然豊かな多良岳の環境で、健康に育て上げたこだわりのブランド豚「金星佐賀豚」です。金星佐賀豚の特徴は、ドリップが出にくく、脂身がギュッと詰まった肉質は、高品質できめ細かく、口に入れると豚肉が持つ旨味が口の中に広がります。

くらとみ眼科医院ホームページ：<http://kuratomiganka.com/>
POSAホームページ：<http://www.posaoffice.net/>をご参照ください。

金星佐賀豚 100%のハンバーグセット (寄付金 1万円につき 1セット)	金星佐賀豚 100%のハンバーグと生ワインナーのセット (寄付金 1万1千円につき 1セット)
	

	金星佐賀豚ロース（生姜焼き用）250 g と金星佐賀豚バラ（薄切り用）250 g の スライスセット (寄付金 1万1千円につき 1セット)
	

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2023年度事業報告

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2023年4月1日から2024年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2023年11月20日から2023年11月29日まで

実施期間：2023年11月23日から2023年11月27日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：13名

眼科医：6名 倉富 彰秀 井上 望 佐野 一矢 長岡 広祐 宮田 佳祐
高木 啓伍

看護師：3名 中村 るみ 佐伯 陽子 永渕 京子

学生：3名 砂原 悠汰 中村 紗也佳 前村 実優 一般：1名 永渕 愛珠

活動内容：現地の眼科疾患の症例及び455名の患者さんを対象としたスクリーニングアイキャンプ及び96名の白内障手術を実施。

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金
：バングラデシュの現状についての啓発活動

2024年度事業計画

〈バングラデシュ眼科診察及びスクリーニングアイキャンプの実施〉

実施期間：2024年4月1日から2025年3月31日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：現地眼科医及び現地スタッフ

〈バングラデシュアイキャンプの実施〉

派遣期間：2024年10月31日から2024年11月6日まで

実施期間：2024年11月1日から2024年11月5日まで

実施場所：バングラデシュ国インターナショナルエンゼルアソシエーション

(IAA) 本部クリニック施設にて

派遣員：日本からの眼科医師及び看護師及び視能訓練士及び一般参加

国内啓発活動：バングラデシュアイキャンプへの寄贈品、募金

：バングラデシュの現状についての啓発活動

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA アイキャンプ白内障手術の症例数

	実施年	実施場所	手術など	症例数
第1回	1995年2月	インド	白内障手術	37眼
第2回	1995年12月	インド	〃	99眼
第3回	1996年12月	インド	〃	125眼
第4回	1997年12月	インド	〃	184眼
第5回	1998年12月	インド	〃	184眼
第6回	1999年12月	インド	〃	127眼
第7回	2000年12月	バングラデシュ	症例調査 スクリーニング	0眼
第8回	2001年12月	バングラデシュ	白内障手術	13眼
第9回	2002年12月	バングラデシュ	〃	55眼
第10回	2003年12月	バングラデシュ	〃	86眼
第11回	2004年12月	バングラデシュ	〃	81眼
第12回	2005年12月	バングラデシュ	〃	61眼
第13回	2006年12月	バングラデシュ	〃	75眼
第14回	2007年12月	バングラデシュ	〃	73眼
第15回	2008年12月	バングラデシュ	〃	63眼
第16回	2009年12月	バングラデシュ	〃	88眼
第17回	2010年12月	バングラデシュ	〃	102眼
第18回	2011年12月	バングラデシュ	〃	105眼
第19回	2012年12月	バングラデシュ	〃	107眼
第20回	2013年12月	バングラデシュ	〃	103眼
第21回	2014年2月	バングラデシュ	〃	123眼
第22回	2017年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	55眼
第23回	2018年2月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	82眼
第24回	2018年11月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	40眼
第25回	2019年11月	バングラデシュ	〃	96眼
第26回	2021年11・12月	バングラデシュ ダッカライオンズ病院	〃	70眼
第27回	2022年11月	バングラデシュ	〃	97眼
第28回	2023年11月	バングラデシュ	〃	96眼
			合計	2,427眼

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

2024 年 POSA アイキャンプ日程

10月31日（木）各地午前発バンコク1泊、又は羽田発25時深夜便
11月1日早朝バンコク着
11月1日（金）午前 TG32 バンコク発 昼ダッカ着 1日目の患者さんの術前検査
手術準備
11月2日（土）手術1日目 午後2日目患者さん術前診察
11月3日（日）手術2日目 朝 術後診察 午後3日目患者さんの術前診察
11月4日（月）（祝）手術3日目 朝 術後診察
11月5日（火）前日手術患者さんの術後診察 昼ダッカ発 TG322 バンコク行き
11月6日（水）早朝各地発

皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせ先：POSA 日本事務局 くらとみ眼科医院

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685

E-mail アドレス : posa@train.ocn.ne.jp (担当者：田中)

暖かいご支援ありがとうございました

2023年4月1日～2024年3月31日

【寄付者】

国際ソロプチミスト久留米様、神埼ライオンズクラブ様、世戸憲男様

その他複数の方からご寄付を頂きました。

くらとみ眼科医院募金箱、菊池眼科募金箱にもたくさんのご寄付を頂きました。

ありがとうございました。

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST

POSA 理事・監事

理事長	倉富 彰秀	(医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院 理事長)
副理事長	井上 望	(医療法人 菊池眼科 理事長)
理事	八谷 克幸	(佐賀県議員)
理事	橘 光幸	(橘商事 代表)
監事	末永 博義	(末永司法書士事務所 代表)
監事	峰 悅男	(峰公認会計士事務所 代表)

(順不同)

POSA 名誉会員

名誉会員	山口 祥義	(佐賀県知事)
	中尾 清一郎	(佐賀新聞社 社長)

(順不同)

POSA 一般会員

芥川 泰生	井上 麻記	枝光 理	各務 晃子	小森 啓範
佐野 一矢	砂原 伸彦	世戸 憲男	高橋 雄二	高橋 良太
瀧本 峰洋	照屋 武	照屋 邦子	長岡 広祐	中村 るみ
秀島 正博	福島 武	堀 秀行	山口 克宏	吉田 幸代
與那嶺 豊	㈱神埼薬局	ロートニッテン(株) ㈱毛利工務店		

(順不同)

POSA (ポサ) 規約 (一部抜粋)

(目的)

第3条 本会は、眼科衛生学に関する知識の普及及び白内障・緑内障に対する研究・ボランティア活動を行い、視覚障害者の減少に寄与することを目的とする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員は、入会金壱万円、及び年会費壱万円を納入しなければならない。

POSA 一般会員入会を隨時受け付けております。ご連絡下さい。
(POSA 事務局 TEL:0952-52-8841 田中)

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



エンゼルホームのスタッフと子供達、みんなで記念撮影



子供たちに日本から持参したプレゼントを渡しました

ALL THAT IS NOT SHARED IS LOST



スクリーニングを待つ人たち

Project Operation Sight for All

P O S A 事務局

〒842-0002 佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里 2435-1

医療法人 輝秀会 くらとみ眼科医院

TEL : 0952-52-8841 FAX : 0952-52-8685

ホームページアドレス <http://www.posaoffice.net/>

E-mail アドレス posa@train.ocn.ne.jp

2024年4月発行